

島根県の地震

令和7（2025）年8月

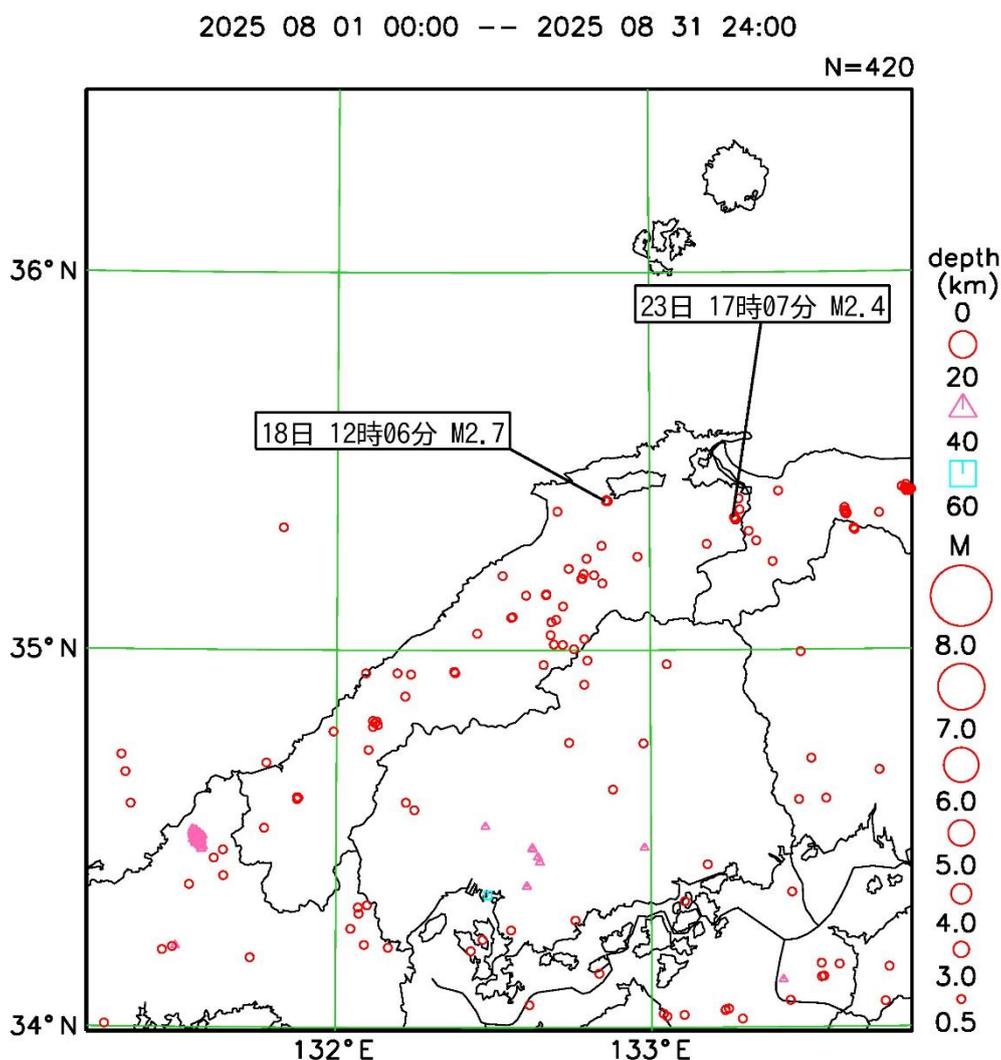
・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2025年8月1日～31日



[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は420回（7月は168回）でした。

また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、3回でした。

17日06時13分 日向灘の地震（深さ29km、M5.7：地図範囲外）により、浜田市・益田市・大田市で震度1を観測しました。また、宮崎県宮崎市・串間市・美郷町・国富町で震度4を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度3～1を観測しました。この地震はフィリピン海プレート内部で発生しました。

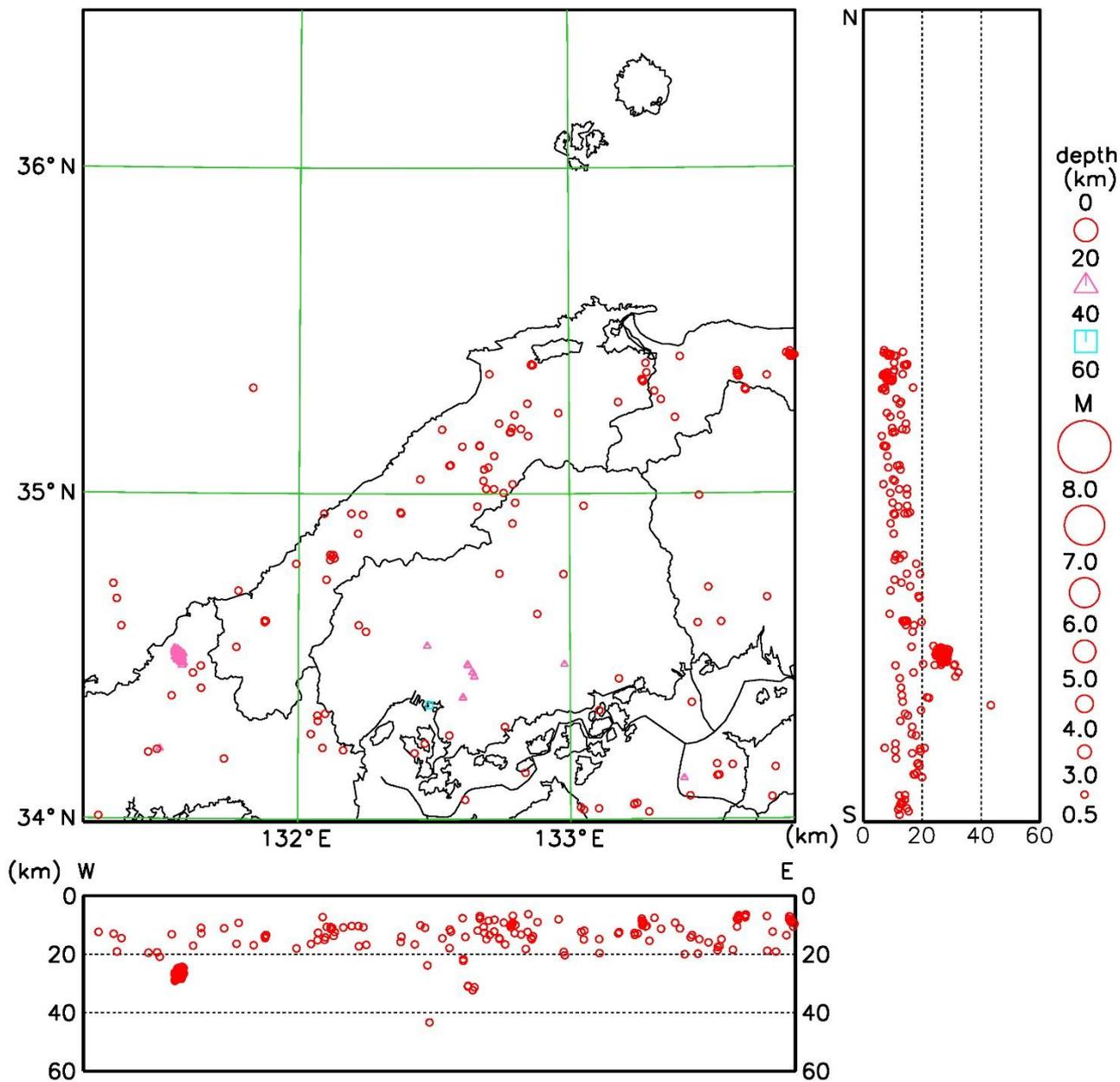
18日12時06分 島根県東部の地震（深さ15km、M2.7）により、雲南市で震度1を観測しました。

23日17時07分 島根県東部の地震（深さ10km、M2.4）により、安来市で震度1を観測しました。

※山口県北部の地震活動については6ページ参照。

[断面図]

2025 08 01 00:00 -- 2025 08 31 24:00



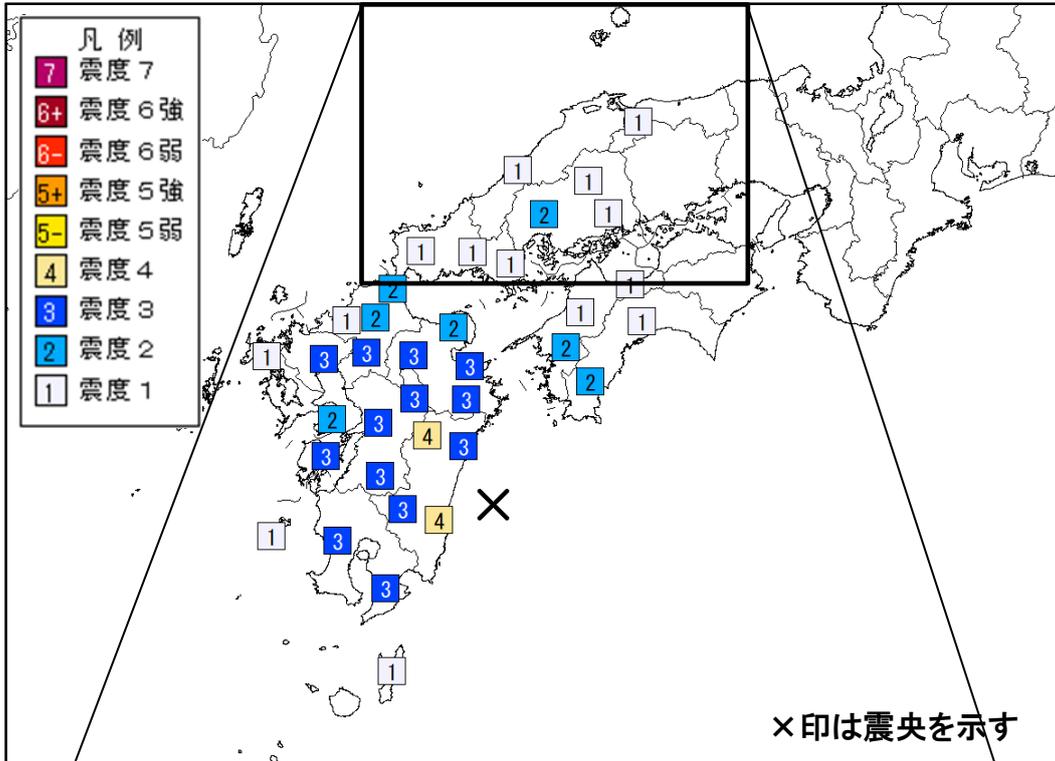
8月の島根県内の地震表（震度1以上）

発震日（年月日時分） 各地の震度（島根県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2025年08月17日06時13分 ----- 地点震度 -----	日向灘	32° 02.2' N	131° 56.1' E	29km	M5.7
島根県	震度 1：浜田市殿町*、益田市常盤町*、大田市仁摩町仁万*				
2025年08月18日12時06分 ----- 地点震度 -----	島根県東部	35° 23.6' N	132° 51.6' E	15km	M2.7
島根県	震度 1：雲南市掛合町掛合*				
2025年08月23日17時07分 ----- 地点震度 -----	島根県東部	35° 21.0' N	133° 16.3' E	10km	M2.4
島根県	震度 1：安来市伯太町東母里*				

・地点名の後に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

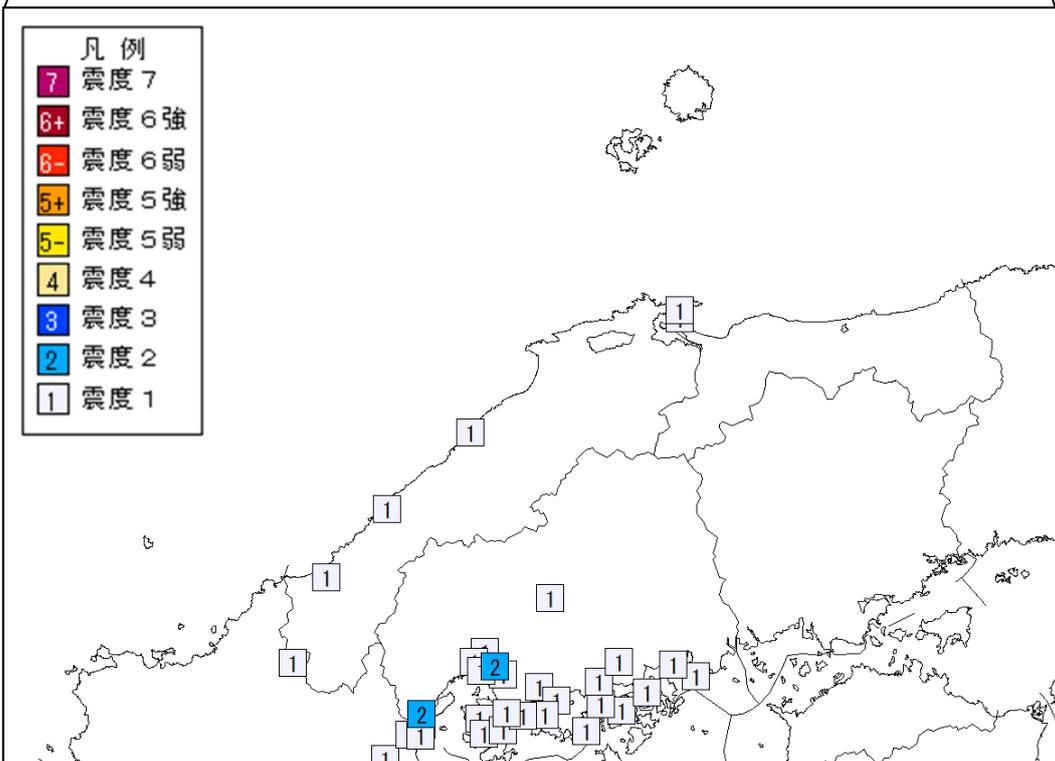
【地域震度分布図】

2025年8月17日06時13分 日向灘



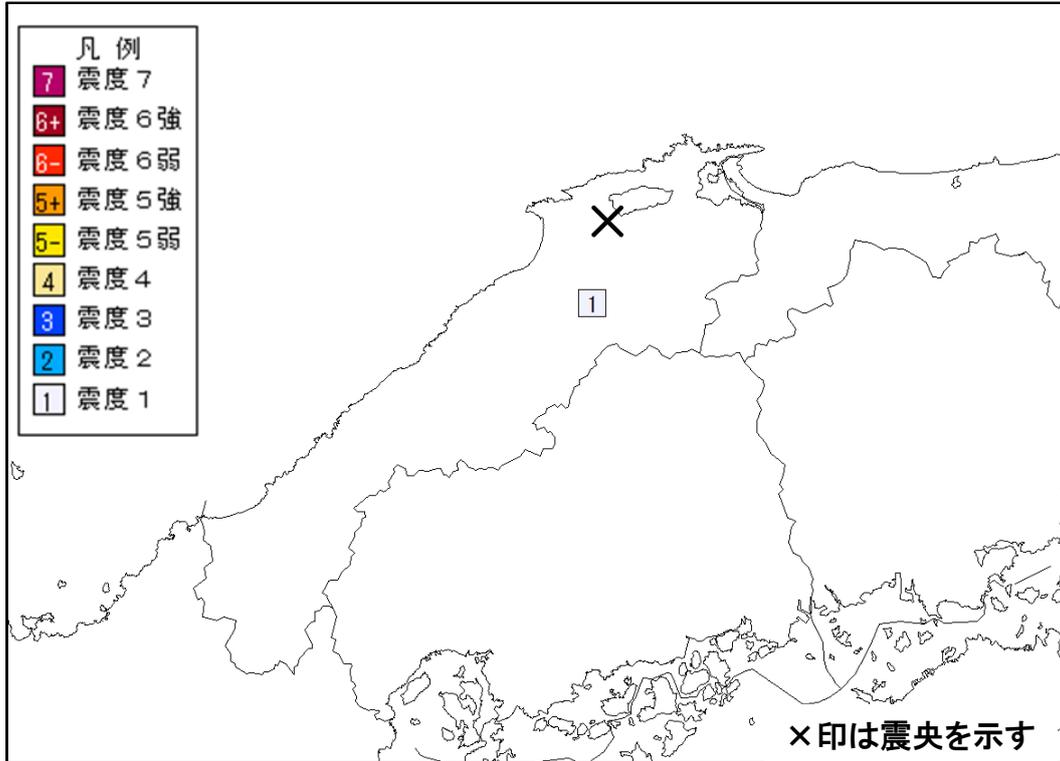
【観測点震度分布図】

地域震度分布図枠内拡大図



【観測点震度分布図】

2025年8月18日12時06分 島根県東部



【観測点震度分布図】

2025年8月23日17時07分 島根県東部



山口県北部の地震活動

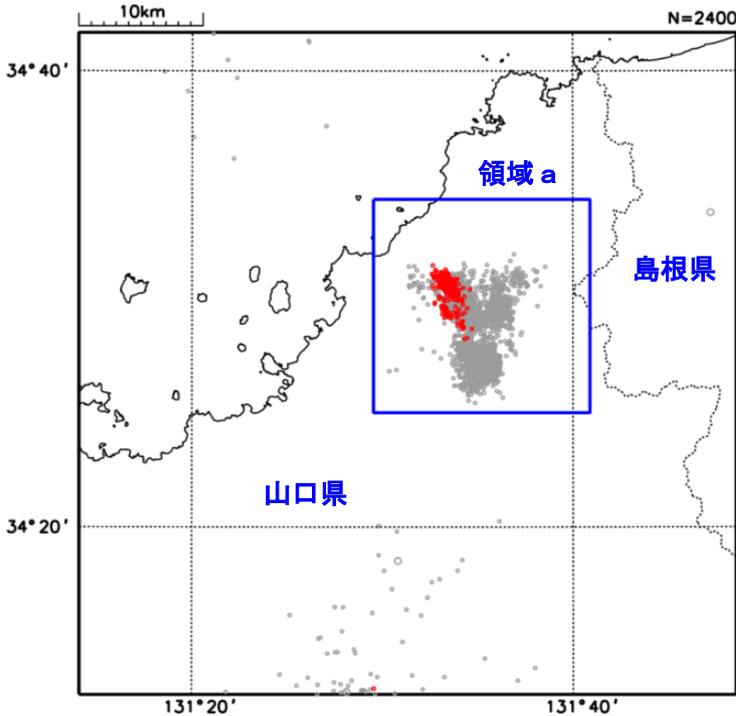


図1 震央分布図
 (2000年10月1日～2025年8月31日、
 深さ20～50km、 $M \geq 0.5$)
 ※2025年8月に発生した地震を赤色で表示

山口県北部では、これまで地震が発生していなかった場所(図1領域a)で、2025年2月からまとまった地震活動が見られるようになりました。6月以降活動は低下していましたが、8月に再度やや活発になりました(図3)。

なお、8月31日現在、震度1以上を観測した地震は発生していません。

政府の地震調査委員会(※)は9月9日に公表した「2025年8月の地震活動の評価」の補足説明において、この地震活動について評価しました。評価の詳細については下記リンク先の資料(P4、P26、P31～34)をご覧ください。

※地震調査研究推進本部に属する組織で、地震活動の評価を一元的に実施しています。

資料のリンク先

https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2025/2025_08.pdf

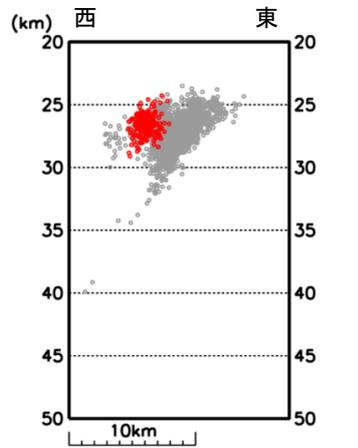


図2 図1領域a内の断面図

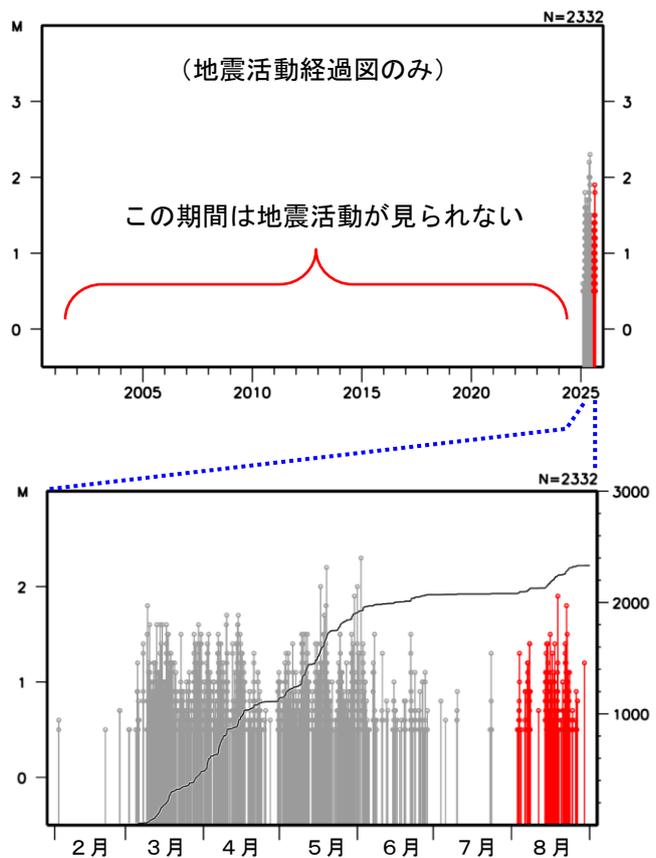


図3 図1領域a内の地震活動経過図及び回数積算図
 上段：2000年10月1日～2025年8月31日
 下段：2025年2月1日～8月31日

地震一口メモ

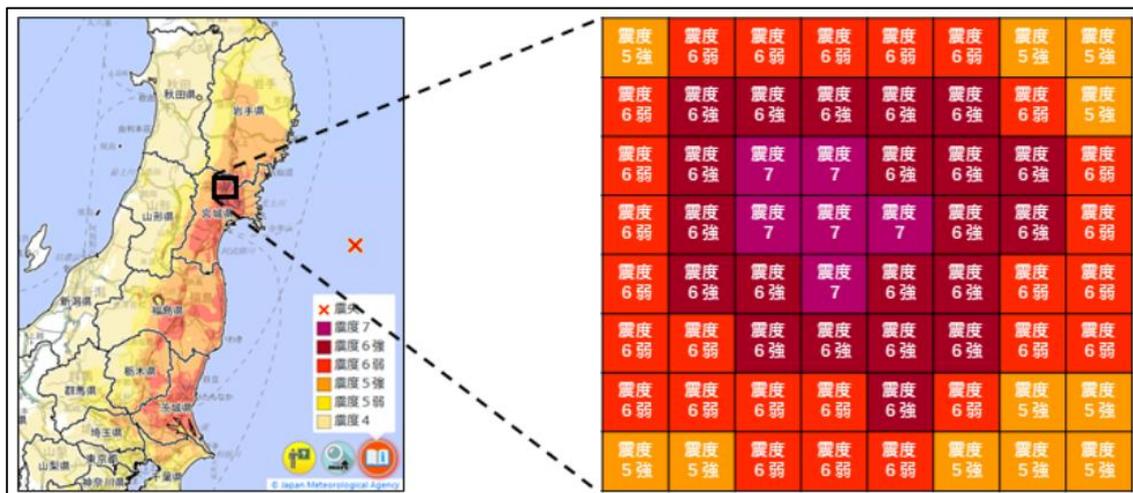
推計震度分布図について

○推計震度分布図とは

軟弱な地盤では揺れが大きく、固い地盤では揺れが小さいなど、地表で観測される震度は、地面表層の地盤増幅度の影響を大きく受けます。「推計震度分布図」は、実際に観測された震度等を基に、この地盤増幅度を使用して震度計のない場所の震度も推計して面的な分布図で震度を表現したものです。令和5年2月1日より、それまでの1kmメッシュ（平成16年3月1日～令和5年1月31日）から250mメッシュで震度を推計しています。

推計震度分布図では、震度の大きな地域がどのような広がりを持って分布しているかを確認することができます。震度が大きく推計された地域は、河川の流域、沖積平野、湿原地帯などといった揺れやすい地盤を反映していることがあります。大きな震度の面的な広がりを考慮して、被害状況把握などの参考資料としてご利用ください。

メッシュ毎に推計される震度のイメージ



○発表基準

全国いずれかの震度観測点で震度5弱以上を観測した場合に発表し、推計震度4以上の範囲を示します。

※ただし、震度5弱以上を観測していても、強い揺れの範囲に十分な広がりが見られない場合などは推計震度分布図を発表しないことがあります。

○提供方法

地震発生後速やか（15分後目途）に、推計震度分布図を地方公共団体等関係防災機関に提供するとともに、気象庁ホームページにも掲載します。

○推計震度分布図の利活用

推計震度分布図は、地図データとして活用可能な形式で、メッシュごとに推計した震度情報を提供します。このため、地図に重ね合わせて利用することで様々な活用いただけます。気象庁ホームページでは、地図データと重ね合わせて掲載

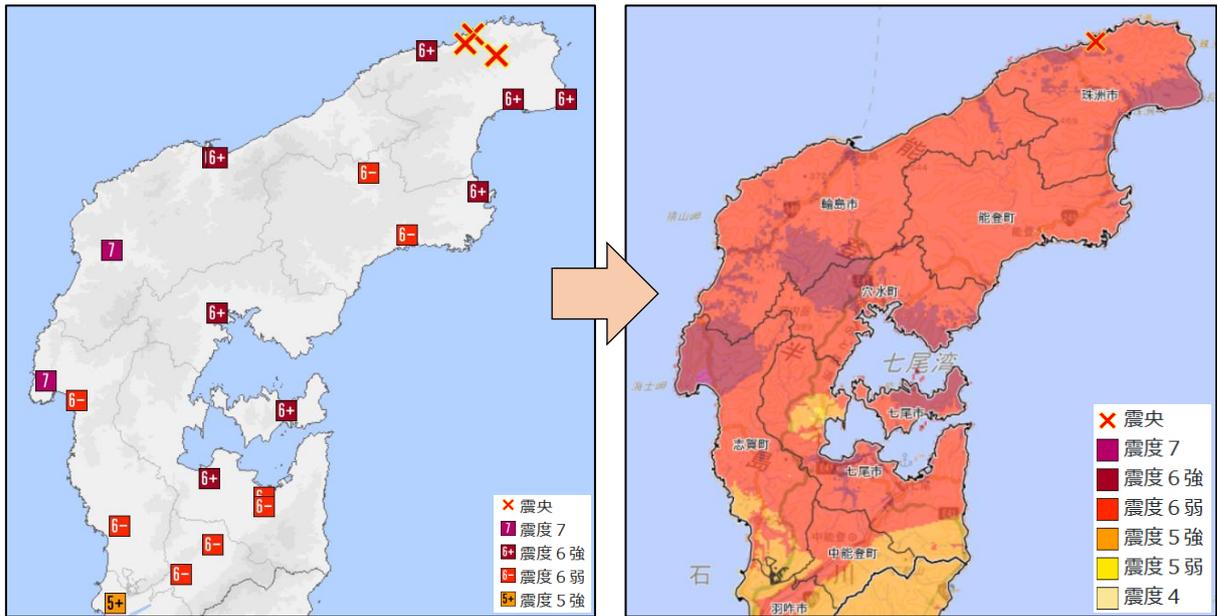
地震一口メモ

しますので（推計震度分布図（防災情報））、揺れが強かった地域を一目で確認したり、震度計がない地域の震度を速やかに把握することが可能です。

利活用事例の一つとして、地震発生直後の、応急対応すべき優先箇所の判別に活用可能です。迅速かつ適切な救難ルートを選定や避難場所の選定等に活用いただけます。

ある震度が推計された地域において、どのような現象や被害が発生すると想定されるかについては、気象庁震度階級関連解説表をご参照ください。

2024年1月1日16時10分「石川県能登地方の地震」の例



地点震度の分布図

※ほぼ同時刻に発生した地震であり
震度の分離ができないため、
震源を複数記載。

推計震度分布図 (250m メッシュ)

(気象庁ホーム>防災情報>推計震度分布図)

○利用上の留意事項

推計震度分布図で示す個々のメッシュの震度は、各メッシュの矩形内が同一震度であることを示すものではなく、またメッシュの境界線が震度の境界でもありません。したがって、分布図を必要以上に拡大してメッシュの境界線を強調してもあまり意味がありません。図を活用する場合、大きな震度の面的な拡がり具合やその形状に着目していただくことが重要です。また、推計された震度の値は、場合によっては1階級程度異なることがあります。

参考：気象庁ホームページ

- ・ 知識・解説>推計震度分布図について

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/jishin/suikai/kaisetsu.html>

- ・ 知識・解説>震度について>気象庁震度階級関連解説表

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/shindo/kaisetsu.html>

- ・ 防災情報>地震・津波>推計震度分布図

https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=estimated_intensity_map